

言葉遊びに想像膨らむ

絵本作家による読み聞かせとワークショップが8月23日、高城生涯学習センターで開催されました。絵本好きな親子10組が参加。親子らは、作家自身による読み聞かせや言葉を使った遊びに耳を傾け、絵本の面白さを体感していました。また、ワークショップでは開くと飛び出すカードを作り、好きな色を塗ったり絵を書いたりして楽しんでいました。家族で参加した花田夕里歌ちゃん（4歳・吉尾町）は「動物が出てくる絵本が大好き。今日は、象の話があったのでうれしかった」と、絵本への興味を深めていました。



絵本作家による読み聞かせ

これからのまちづくりを考える

8月に着任した、中心市街地活性化タウンマネージャーの二宮啓市さんによる講座が8月27日、ウエルネス交流プラザで開催されました。市民80人が参加し、北九州市で実践した、空き店舗を改修して活用する「リノベーションまちづくり」の手法を紹介。眠っている不動産を管理運営する「家守組織」を育て、共にまちの再生に取り組もうと訴え掛けました。榎田志穂さん（三股町）は「意欲的に活動しているたくさんの人たちがつながることで、まちなかにぎわいづくりができる実感した」と話していました。



都城タウンマネージャー講座

健康と長寿の願いを込めて

今年度、100歳を迎える76人と最高齢者に贈る長寿祝いの湯のみ窯出しが8月27日、吉之元町の工房で行われました。湯飲みには、一つ一つ名前が書かれ丁寧に仕上げられています。都城焼窯元の宇都野暁さんは「今年も湯飲みを作る大役が果たせたとすがすがしい表情を浮かべていました。」



大淀川こどもサミット

川の大切さを再確認

体験して河川環境の大切さを学ぶ「大淀川こどもサミット」が8月23日、下沖水橋河川敷のせせらぎ水路公園で開催されました。約170人の子どもらが参加し、魚のつかみ取りや大淀川にすむ魚の展示、河川のごみに関するクイズなどを楽しみながら、水辺の環境の大切さを学んでいました。



長寿祝いの湯のみ窯出し

大規模災害に備える

南海トラフ巨大地震を想定した県防災訓練が8月30日、本市を含む県南地域各所で行われました。津波により沿岸部が被災したことを想定して、救済物資の搬送やボランティア派遣など、被災地支援の訓練を初めて実施。また、救命講習や消火訓練も行われ、参加者らは防災への意識を高めました。



宮崎県総合防災訓練

大切な一票を無駄にしないように

選挙権年齢が18歳以上に改正されることに伴い、若者に選挙の仕組みと有権者としての自覚を促す選挙出前講座が8月28日、都城泉ヶ丘高校で行われました。同校の2、3年生約520人が参加し、市選挙管理委員会から選挙の歴史や最近の投票状況などの説明を受けた後、模擬選挙を実施。生徒らは緊張した面持ちで、一つ一つ手順を確認しながら投票しました。前田一成さん(2年)は「投票までの流れが、慎重に管理されていることに驚いた。一票を無駄にすることがないよう、必ず選挙に行きたい」と力強く話しました。



選挙出前講座

長寿と健康を祝って

敬老の日を前に、100歳を迎える市内の高齢者を祝う世帯訪問が9月3日、市内の各所で行われました。今年度、市内の100歳到達者は76人。市内最高齢となる篠原サカエさん(107歳・今町)を池田市市長が訪問し、祝い状と一緒に名前が書かれた大湯飲みや花束を贈り、長寿を祝いました。明治41年生まれで、今町にある一里塚の清掃活動などで表彰を受けたこともある篠原さんは、贈られた祝い状の文面を大きな声で読み上げると、「ありがたいことです」と感謝の気持ちを述べていました。



高齢者世帯訪問

趣向を凝らした展示でお出迎え

重陽の節句「のちの雛展」が9月5日から20日まで、旧後藤家商家交流資料館で開催されました。無病息災を願う風習に合わせて、虫干しのため、同館が所蔵するひな人形など趣向を凝らして展示。来場者らは、節句のいわれを聞いたり、展示物を眺めたりしながら、味わい深い雰囲気を楽しんでいました。



ビーチバレー霧島酒造オープン

砂上の息詰まる熱戦

ビーチバレー霧島酒造オープンが9月4日から6日まで、霧島ファクトリーガーデンで開催されました。山之口町出身の徳丸信代選手など、国内トップアスリート24組が出場。プロ選手の華麗なプレーを一目見ようと多くの来場者が訪れ、息詰まる熱戦に観客席からは歓声が沸き起こっていました。



重陽の節句「のちの雛展」

ちびっ子アスリートの熱き挑戦

水泳や自転車、長距離走の合計タイムを競う、きりしまんちだジュニアトライアスロン大会が9月6日、高城観音池公園で開催されました。市内外から健脚自慢185組・243人がエントリー。起伏に富んだコースでタイムを競う選手らに、詰め掛けた観客からは熱い声援が送られていました。



ジュニアトライアスロン大会

誰にでも
親切にする心を育てる



「小さな親切」運動 都城支部 代表 栗山 寛さん



全国154の市町村で行われている、あらゆるもの思いやりの目を向け、自発的に親切的な行動に取り組む「小さな親切」運動。同都城支部代表を務めるのが栗山寛さん（安久町・88歳）です。栗山さんは教育委員として活躍した後、平成11年から現在に至るまで、社会に貢献している人への表彰活動や環境美化活動、青少年の心を豊かにする活動などに携わっています。

「できる親切はみんなですよう、それが社会の習慣になるように」をスローガンに、小さな親切運動の輪を広げる活動を続けていて、地域を代表して、社会に貢献した人を表彰しています。

また、環境美化活動のひとつ「大淀川クリーン作戦」は30年以上続く取り組みで、活動の柱になっています。昨年は、「河川、海岸又は港湾におけるボランティア美化活動宮崎県知事表彰」を受賞。「活動を認めてもらい、一層やる気が出た。この荣誉は、多くの団体や個人ボランティアの協力によるもの」と活動に参加する人への感謝の気持ちも忘れません。

さらに、青少年の心を豊かにする活動においては、今では懐かしくなつた紙芝居を通して、子どもたちが親切心や思いやりの心を培うように取り組んでいます。



「他人に対して親切な対応をすることが社会生活の常識。社会全体が親切な雰囲気をつくるようになってきたことがうれしい」と笑顔をみせます。

見返りを求めず行われる小さな親切運動。表彰を受けた人から「見てくださいる人がいたのですね」と感謝の気持ちや電話や手紙でもらうと、すがすがしい気持ちになると目を細める栗山さん。

「支部創立40周年に向けて、今後も地道な活動で汗を流し、子どもたちへの心の教育活動も続けていきたい」とさらなる夢を語ります。



被災地派遣 職員奮闘記

Vol.2

平成23年3月に発生した東日本大震災では、東北地方の太平洋沿岸の自治体が数多く被災。平成24年度から本市では、被災した自治体を支援する取り組みとして、職員を派遣しています。今回は、宮城県南三陸町に派遣されている江藤周祐主査の奮闘ぶりを紹介します。

津波が残した傷跡

私が南三陸町復興事業推進課に配属されてから、半年が経ちました。平成24年以降、南三陸町には都城市から毎年1組2人が派遣されていて、私たちで4組目になります。

リアス海岸を有する南三陸町は、入り組んだ海岸線の特徴から、津波による被害が特に大きく、低地部にあった町の中心は、壊滅的な被害を受けました。



私は、このような状況のもと、被災した人たちの住宅などを低地部から、高台へ移転するための土地を造成する事業に携わっています。現在、被災した人の多くは、仮設住宅で生活しています。被災した人たちが生活を再建し、南三陸町が復興できるよう、全国から集まった職場の仲間と共に、日々奮闘しています。

戻ってきた奇跡のポスト

歌津地区には、仮設の福幸商店街があります。ここには、津波で流されてから、1年9



月後に沖縄県西表島で発見され、傷つきながらも奇跡的に戻ってきたポストがあります。

8月に開催された「歌津復興夏まつり」では、沖縄県で活躍する歌手も招待。奇跡のポストが結んだ、沖縄と歌津地区の縁の強さと、住んでいた場所へ一日でも早く戻りたいという、住民の強い希望を感じることができました。

残された期間、住民の皆さんが希望をかなえられるように、業務にまい進していきたいと思えます。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174

盆地生まれの
元気をいただきます!

カボチャのかき揚げ

※1人分 238kcal、塩分0.39

1日の野菜摂取量は350g



カボチャは、ベータカロテンのほか、ビタミンB₁、B₂、カルシウム、鉄などをバランスよく含んだ野菜です。ベータカロテンは、細胞の粘膜などを強化し、免疫力を高める働きがあります。

材料 (4人分)

カボチャ	120g	小麦粉	25g
玉ネギ	80g	片栗粉	18g
ピーマン	80g	塩	0.8g
しらす干し	8g	卵	1/2個
油		ショウガ	4g
※付け合わせ	青シソ	白ゴマ	4g
		花かつお (ソフト)	10g

●下準備

カボチャ、ピーマン、ショウガ…千切りにする
玉ネギ…くし切りにして、スライスする
しらす干し…湯通しする

●作り方

- ①カボチャ、玉ネギ、ピーマン、しらす干しをAと軽く混ぜ合わせる
- ②①をしゃもじなどで適量取り、中温の油でゆっくり揚げ器に盛る ※好みで青シソなどをひく

ちょっと
ひと工夫

季節の香味野菜と組み合わせると、いろいろな味が楽しめます。

◎問い合わせ 健康課 ☎23-2765